

# 人工衛星の運用に関する法制面における論点

平成30年9月25日  
内閣府  
宇宙開発戦略推進事務局

# 人工衛星を用いた様々なビジネス活動の進展

- 近年、国内外で、大企業からベンチャーまで、様々な主体が、人工衛星を打ち上げ、運用し、新たなビジネスを計画。
- 数百～数千もの人工衛星を軌道に配備する計画を有しているベンチャーも出現。
- さらに、宇宙デブリ除去や、軌道上での他の衛星への燃料補給といった、革新的なサービスの提供を試みる人工衛星を開発中のベンチャーも複数存在。

## 小型の人工衛星の運用計画

企業名	機数
OneWeb社（英国）	約900機
Space X社（米国）	4000機超
Planet Labs社（米国）	100機超
BlackSky Global社（米国）	約60機
Axelspace社（日本）	約50機

（出所：経産省調査）



（OneWeb社HPより）

小型衛星のコンステレーション

## 計画中の様々な軌道上サービス

### 宇宙デブリ除去サービス



- 軌道上で宇宙デブリ（ロケット上段等）に接近し、捕獲。
- その後、大気圏に突入し、宇宙デブリを焼却。

### 衛星修理サービス

- 軌道上で壊れた衛星を捕獲し、修理。
- 軌道上で燃料が切れた衛星に補給。



（出所：米国SSL社HP）

### 燃料補給サービス

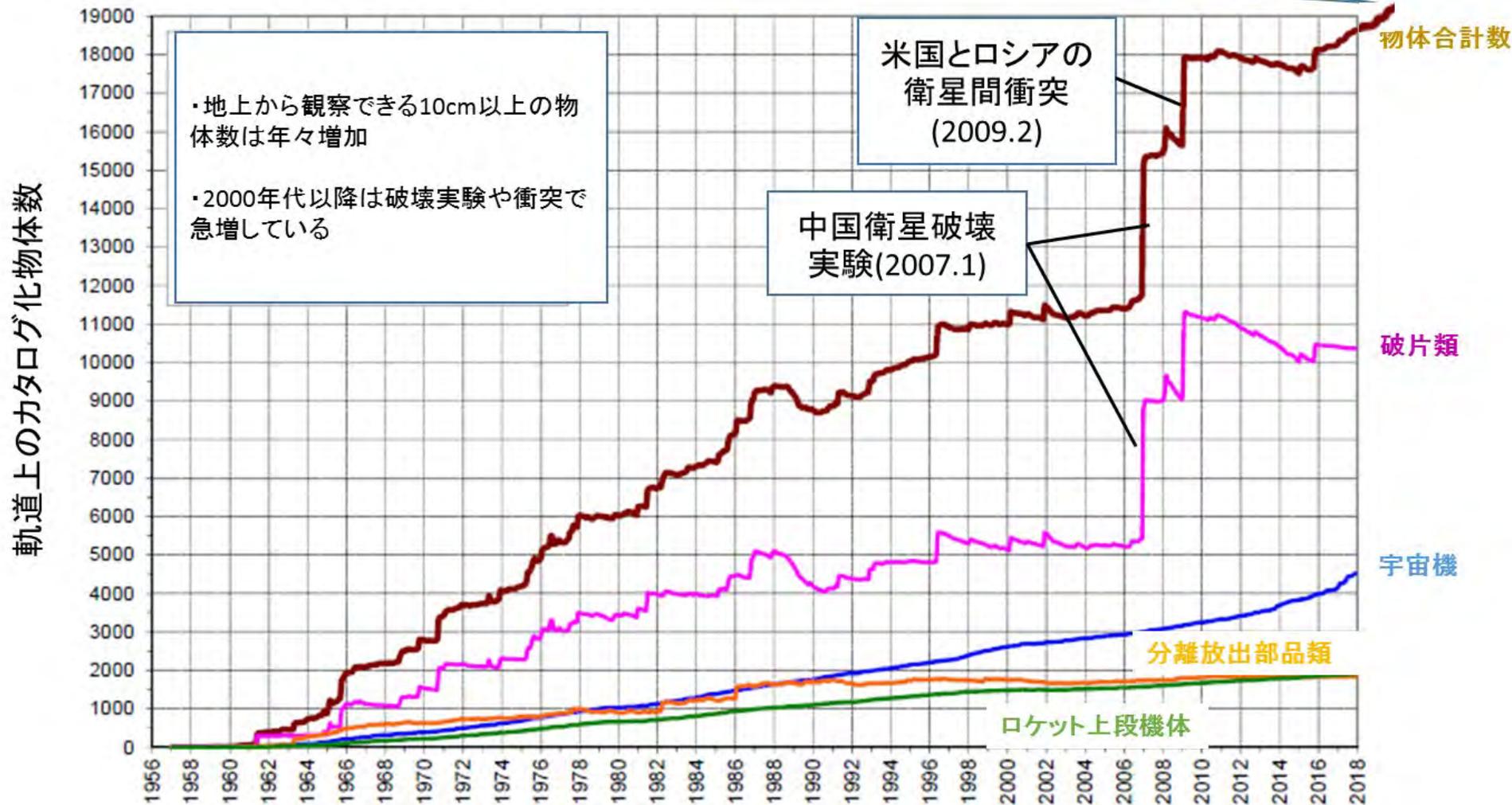


（出所：米国SSL社HP） 2

# 軌道上物体は増加傾向

- 軌道上の物体（人工衛星、宇宙デブリ等）は、増加傾向。今後も増加の見通し。

2018年5月現在、19,132個



# 主な法的論点

- **人工衛星を用いた新たなビジネス活動を支えるための法制面での課題等**
  
- **軌道上損害に対する政府補償制度等の必要性**
  - **各国との比較**
  - **第三者損害賠償責任（TPL）保険の義務付けの要否**  
など
  
- **その他**